

**未来を見据えたまちづくりは
市民とともに進める**

【市長】 これから沼津の新たなまちづくりが本格的にスタートします。そこで大事なのが師匠がおっしゃったような、得意分野で自立するような取組です。例えば、「OPEN NUMAZU」という、まちなかに人が心地よく過ごせる場所をつくる取組の一環で、商店街や駅南口の道路に座れるところを設置し、人の滞留を促していますが、近隣自治体ではあまり例がないんですよね。

【寛平】 あ、さっき市長と一緒に座った仲見世商店街の入口のとこやね。

【市長】 人口の多い都市部での事例を沼津に落とし込んで成功するかはわかりませんが、チャレンジしてみてもいいんじゃないかな、定着することを継続してやっていこうというのが、今の社会実験です。

【寛平】 中央公園の景色が変わってきいたのも「やっぱり頼重市長やるなあ」って思いましたわ。

【市長】 私は実験市長と呼ばれていますが(笑)。もうひとつ挑戦していることが、自分たちのまちを良くしようという市民感情の醸成です。沼津を愛し、誇りを持ち、自分が関わってまちを変えていくという想いを持った人が増えれば、沼津のまちはもっと魅力的になると信じています。

若い世代の「ちから」

【市長】 市民の皆さんに、沼津の魅力をさらに知っていただければ、自分の住むまちに誇りを持ってもらえると思います。広報力の強化にも取り組んでいます。皆さんに、広報ぬまづを楽しんでもらえるよう、若手職員と意見を交わし改革を続けています。おかげで「沼津ってこんなに良いところがあったんだ」という声もいただけるようになってきました。また、まちづくりになくてはならない技術系職員の確保が課題となっていて、若手職員が企画し、自らの母校にリクルートに出かけるなど積極的な活動をしたんです。その甲斐があって、課題解決の道筋が見えてきました。

【寛平】 そうですよ！やっぱり若い人の意見って大事ですよ。

【市長】 さらに、沼津の未来を創造するさまざまな事業にスピード感を持って挑戦するため、若手職員を中心とした「沼津市役所新時代創造プロジェクト」を立ち上げ、広報やICT環境などの改革に取り組み始めました。最近は、仕事でも暮らしのなかでもDXやAIなどが必要不可欠となっていますが、時代の流れに柔軟に対応できる職員は貴重です。しかも、彼らは現場で市民



間寛平(はざまかんべい)
1949年、高知県に生まれる。昭和45年に吉本興業に所属。平成20年12月～平成23年1月にはヨットとマラソンによる地球一周「アースマラソン」を完走。現在は吉本新喜劇ゼネラルマネージャーを務める。ぬまづどんのプロデュースなど沼津の活性化に繋がる取組を実施している。



頼重秀一(よりしげしゅういち)
1968年、沼津市生まれ。平成15年に沼津市議会議員に初当選。その後、第83代市議会議長を務め、平成30年に沼津市長に就任。市長として多数の施策を展開すると同時に、X・Facebook・Instagram等のSNSを駆使し、広く親しみやすい情報発信に挑戦中。

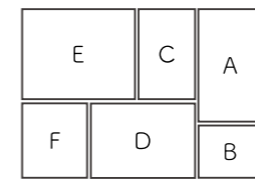
【市長】 お話を聞いて、師匠も同じような想いで取り組んでおられるんだなと嬉しくなりました。若い人たちは自分たちの想いを伝えたり、実力を発揮したりするという環境がありません。職員にも「市長だからと臆することなくアイデアをぶつけてほしい」と話しています。そして「ここは市長に動いてほしい」となったら私自身が行動を起こす。トップが一番働く組織が私の理想なんです。

【市長】 師匠は、吉本新喜劇でゼネラルマネージャーを務めていらっしゃるんですが、若い世代の可能性をどう感じていますか。

【寛平】 僕は人に教えたり、注意とかアドバイスは苦手なんです。若い座員たちには「会社に怒られても俺が全部オケールしたことだからなんとかなす」と伝えて、いろんなことに挑戦してもらおうようにしています。

の皆さんのリアルな声を聞いているんです。だからこそ、若手職員の意見を大切にしたいんです。

【寛平】 良いことやと思います。吉本も規模が大きくなって、入ってくる子ども頭のいい子がほんまに多いんです。僕らの若い頃とはつくるネタが違うんです。



沼津市が挑戦している取組一覧(一部)
A:若手職員が中心となって結果を出している職員採用プロジェクトチーム B:5つの分野に分かれて活動する沼津市役所新時代創造プロジェクト C:再整備に係る利用実証を行うためのトライアル「PARK UP! NUMAZU」を実施中の中央公園 D:車道の一部を利用し、人のためのスペースとして活用するパークレット E:沼津駅周辺をヒト中心の空間へ再編することを目指す、くつろぎ空間「OPEN NUMAZU」 F:着々と工事が進む新貨物ターミナル予定地